

長門市立油谷小学校の児童がシイタケの種駒打ち作業を体験

令和5年1月23日（月）、長門市立油谷小学校において、4年生児童18名がシイタケの駒打ち体験をしました。

これは、次世代を担う子供たちに、ふるさとの森林の大切さやそれを支える林業の役割について、興味、関心をもってもらうために、「油谷林業研究会」（会長：井上清美）が行ったものです。

当日は、会長によるあいさつと森林の話の後、久永副会長からシイタケ栽培について講義があり、広葉樹と針葉樹の違いや、椎茸原木として使用するクヌギの説明等、原木の伐採からシイタケ発生までの説明がありました。

続いて体育館に移動し、会員の指導のもと、原木に各自電気ドリルを使って穴をあけ、木槌で駒の打ち込みを行いました。

児童たちは、電気ドリルの穴あけなど、初めての経験に戸惑いながらも楽しく作業ができました。

作業終了後、児童から感想とお礼のあいさつがあり、最後に記念撮影を行いました。

油谷林業研究会では、今後もこのような森林体験学習を継続し、子供たちの森林に対する意識を高めていくこととしています。



シイタケ栽培について講義



駒打ち体験